

福島県いわき市

豊間地区

塩屋埼灯台



防災緑地

木々が育ち新しい街を守ります

区画整理事業

豊間集会所

県道豊間四倉線

海岸堤防

かさ上げし強化

2021.10

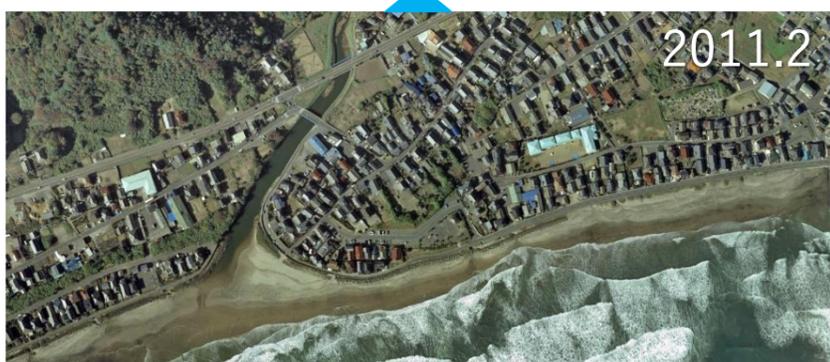
豊間のうつりかわり



2017.7

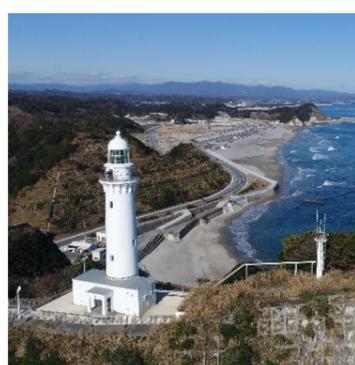


2011.3



2011.2

来て見て豊間



塩屋埼灯台

全国でも数少ない登ることができる灯台です。

豊間集会所

集会所には地元の方々がつくったタイルが飾られています。



ペコ太郎



区画整理事業

防潮堤と防災緑地に新しい街をつくっています。

とよま ぼうさいりょくち ぼくぶ あんないず 豊間防災緑地(北部)案内図



『防災緑地とは…』
 防災緑地は、①津波から人や家を守る、②地域の交流の場、③緑豊かな環境や景観をつくるという3つの大きな役割をもちます。
 また、川や海の堤防と道路がいっしょになって津波から地域を守る「多重防御」という働きによって、防災力が総合的に向上したまちづくりを目指しています。

『豊間防災緑地について』
 豊間防災緑地は、延長約2.4km、幅約50mで面積12.8haのいわき市内でもっとも広い防災緑地です。
 防災緑地の海側には潮風に強いクロマツ、住宅地側には豊間地区に自生している代表的な樹種(クヌギ等の広葉樹)を植えた緑地帯となっております。

『防災緑地をきれいにしましょう。』
 豊間防災緑地は、みなさんが楽しく過ごすための施設です。施設をいつもきれいにするためには、一人一人がマナーやルールを守ることが大切です。
 お弁当やジュースの空き缶などのゴミ、また、ペットのフンは必ず持ち帰りましょう。

※この案内図は、防災緑地に実際にあるレイアウトを採用しています。
 施設に関するお問い合わせ先 福島県いわき建設事務所管理課 (電話) 0246-24-6122

とよま ぼうさいりょくち なんぶ あんないず 豊間防災緑地(南部)案内図



豊間防災緑地周辺の見どころ



▲豊間漁港と塩屋崎灯台「穏やかな時」

塩屋崎灯台
 明治32年に塩屋崎航路標識事務所として開設されました。
 海拔73メートルの断崖に立つ白亜の灯台で、沖合約40キロまで光を放ち、航路の安全を守っています。
 全国でも珍しい見学できる灯台のひとつで、平成10年に「日本の灯台50選」にも選ばれています。
 ここから北に約2 km



▲塩屋崎灯台「朝日を浴びて」



▲豊間海岸「～海が教えてくれること～感謝のきもちを忘れずに」

豊間海岸
 塩屋崎灯台の南に広がる、白い砂浜(鳴き砂)が長く続く海岸です。
 海水浴場としてだけでなく、サーフィンなどでも利用されています。
 ここから北に約600 m

二見ヶ浦
 鳴き砂の残る砂浜の沖に、二見ヶ浦と呼ばれる岩塔があります。伊勢の二見浦に似ていることから、名付けられたそうです。
 浸食や平成23年3月11日に起きた東日本大震災時の岩の崩壊により、現在の様な形となりました。
 ここから南に約1 km



▲二見ヶ浦と合磯岬「早暁」



▲ハマナス

ハマナス
 豊間海岸に生育しているハマナスは、北海道から東北にかけて、海岸付近に自生するバラ科の植物で、いわき市周辺がその南限となっています。近年では自生するものは少なく、福島県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている希少な植物です。
 東日本大震災後、復旧工事が行われるため、地元の方々が自宅等に仮移植していましたが、現在は、豊間防災緑地内の花壇に植えられています。
 ここから北に約300 mと約500 m



▲東日本大震災前の豊間のまちなみ「お気に入りの海岸通り」

※この説明板は「海まち・とよま市民会議」と市内の樹木医に協力頂き作成しました